

科目名	施術総論							年度	2026
英語科目名	The surgical operation general remarks							学期	後期
学科・学年	柔道整復科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	後藤晃弘、杉本知、秋田雄大、加藤健太、有山敦士、宮本功三、青木伊之	教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）		
【科目の目的】 柔道整復師が業務範囲で行う処置の基礎を学ぶ。									
【科目の概要】 各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。									
【到達目標】 柔道整復学の基礎となる人体の構造や機能、ここでは人体の構造や機能を中心に学び理解していくことを目的としている。知識と基盤に立ってさらに臨床の場で特に鑑別診断に必要な知識となれるよう、さらにそれらの知識を応用して緊急な状態にあるものに対して適切な判断、適切な処置ができるよう、柔道整復師の業務で要求されるレベルで説明できるようになることが到達目標である。									
【授業の注意点】 医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会の動きや学生の状況などを概説するので、自分でも情報を収集し起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	問診の進め方について大変よく理解している。	問診の進め方についてよく理解している。	問診の進め方についてだいたい理解している。	問診の進め方についてあまり理解していない。	問診の進め方について全く理解していない。				
到達目標 B	骨折・脱臼の整復法について大変よく理解している	骨折・脱臼の整復法についてよく理解している	骨折・脱臼の整復法についてだいたい理解している	骨折・脱臼の整復法についてあまり理解していない	骨折・脱臼の整復法について全く理解していない。				
到達目標 C	軟部組織損傷の初期処置について大変よく理解している。	軟部組織損傷の初期処置についてよく理解している。	軟部組織損傷の初期処置についてだいたい理解している。	軟部組織損傷の初期処置についてあまり理解していない。	軟部組織損傷の初期処置について全く理解していない。				
到達目標 D	指導管理について大変よく理解している。	指導管理についてよく理解している。	指導管理についてだいたい理解している。	指導管理についてあまり理解していない。	指導管理について全く理解していない。				
到達目標 E	外傷予防について大変よく理解している。	外傷予防についてよく理解している。	外傷予防についてだいたい理解している。	外傷予防についてあまり理解していない。	外傷予防について全く理解していない。				
【教科書】 教科書（柔道整復理論-社団法人全国柔道整復学校協会監修-）に準拠する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		施術総論			年度	2026
英語表記		The surgical operation general remarks			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	手指の筋肉	手指の筋肉はどのようになっているのか？	1 筋の名称	筋の名称を理解する	3	
			2 筋の起始・停止	筋の起始・停止を理解する		
			3 筋の作用	筋の作用を理解する		
2	コミュニケーション	相手を不快にさせないためにどうしたらいいか。	1 患者との距離	不快にさせない距離を理解する	3	
			2 目線の高さ	不快にさせない目線の高さを理解する		
			3 アイコンタクト	不快にさせないアイコンタクトを理解する		
3	診察時の注意点、病歴の進め方	問診より診察を進めていくにはどうしたらよいか。	1 距離・言葉遣い	不快にさせないふるまいを理解する	3	
			2 問診	どのようなことを患者に聞くのか、理解する。		
			3 質問	開放型の質問、閉鎖型の質問を理解する。		
4	診察時期による分類 施術録の記載方法	診察から治癒に向けて進めていくにはどうしたらよいか。	1 診察時期による分類	診察時期による分類を理解する。	3	
			2 治療計画の作成	PDCAを理解する。		
			3 施術録の扱いと記載	施術録の注意点などを理解する。		
5	保険	柔道整復師が取り扱う保険や受領委任払いを知る。	1 健康保険法	健康保険法を理解する。	3	
			2 現物給付	現物給付の流れを理解する。		
			3 現金給付	償還払い、受領委任払いを理解する。		
6	治療法（体位）、 整復法	診察の体位はどのような形なのか。整復するにあたり、気を付けることはどこか。	1 治療の体位	治療の体位を理解する。	3	
			2 整復法を行うまでの流れ	整復目的の理解をする。		
			3 注意点	整復するにあたり合併症などを理解する。		
7	骨折の整復法	非観血的整復法の要点や一般原則はどうなっているのか？	1 骨折の整復の種類	整復の種類を理解する。	3	
			2 非観血的整復の要点	要点を理解する。		
			3 整復の一般原則	一般的な整復の原則を理解する。		
8	骨折の整復法	牽引直圧整復法、屈曲整復法はどのようになっているのか。	1 整復の適応	どういったものに整復ができるのかを理解する。	3	
			2 整復の牽引力	どれぐらい牽引をした方がいいのかを理解する。		
			3 整復の操作	操作を理解する。		
9	振り返り	1回から7回までの振り返り	1 問診	問診の取り方を理解する。	3	
			2 施術録の扱いと記載	施術録の作成を理解する。		
			3 整復	整復の仕方を理解する。		
10	脱臼の整復法	非観血的整復法の要点や一般原則、整復法はどうなっているのか？	1 整復の適応	どういったものに整復ができるのかを理解する。	3	
			2 整復の牽引力	どれぐらい牽引をした方がいいのかを理解する。		
			3 整復の操作	操作を理解する。		
11	軟部組織損傷の初期 処置、指導管理	軟部組織損傷の初期処置はどうすればいいのか。施術終了後、指導管理はどうするのか。	1 捻挫	初期処置を理解する。	3	
			2 筋・腱	初期処置を理解する。		
			3 神経	初期処置を理解する。		
12	指導管理	施術終了後、指導管理はどうするのか。	1 日常生活動作	指導管理を理解する。	3	
			2 住宅環境	指導管理を理解する。		
			3 就労	指導管理を理解する。		
13	外傷予防	第1段階、第2段階、第3段階はどうなっているのか？	1 身体の基礎的状态	健康と体調管理を理解する。	3	
			2 付帯する環境要因	評価と対応を理解する。		
			3 外傷予防啓発	安全活動、啓発活動を理解する。		
14	振り返り	9回から13回までの振り返り	1 整復	整復の仕方を理解する。	3	
			2 指導管理	指導管理を理解する。		
			3 外傷予防	外傷の発生の阻止や外傷の経過を理解する。		
15	総まとめ	後期授業をまとめる	1 問診の取り方	問診の取り方を復習する。	3	
			2 整復	整復の仕方を復習する。		
			3 指導管理	指導管理の仕方を復習する。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等